

警察庁によると、インターネット上で交流するソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)などの「コミュニティサイト」で、2017年上半年期(1~6月)に犯罪被害に遭った18歳未満の子どもは、昨年同時期より30人多い919人で、統計が残る2008年以降、最多でした。このうち91%が有害サイトの閲覧を制限する「フィルタリング」を利用していませんでした。

被害者の年齢は16歳が最多の23

フィルタリングの徹底を

1人、17歳が199人、13歳以下の被害者は140人でした。

被害に遭ったサイトは、ツイッターが327人で最も多く、全体の約35%、チャット型交流サイトの「ひまぶら」が93人、「ぎやるる」65人の順でした。

子どもたちがコミュニティサイトで犯罪被害に巻き込まれないために、「フィルタリング」の設定を徹底しましょう。

防犯一口メモ